まんがでわかる!

メディカルスタッフの仕事❷

医療分野の社会福祉士

医療ソーシャルワーカー

あなたらしさを諦めない
生き方の伴走者

チーム医療推進協議会

まんがでわかる！メディカルスタッフの仕事❷

医療分野の社会福祉士

医療ソーシャルワーカー

あなたらしさを諦めない
生き方の伴走者

監修 チーム医療推進協議会・公益社団法人 日本医療社会福祉協会
マンガ 富士山 みえる

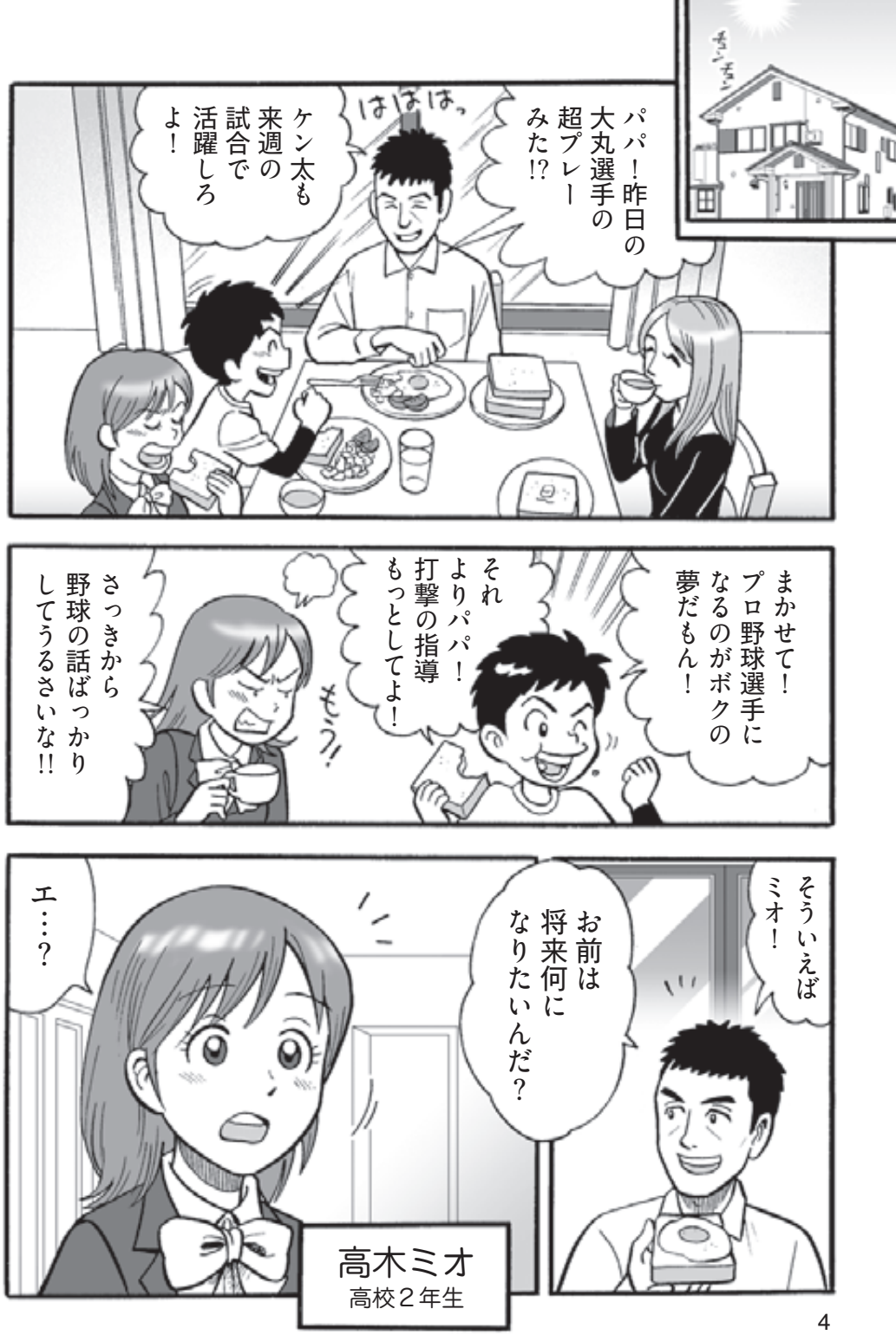
もくじ

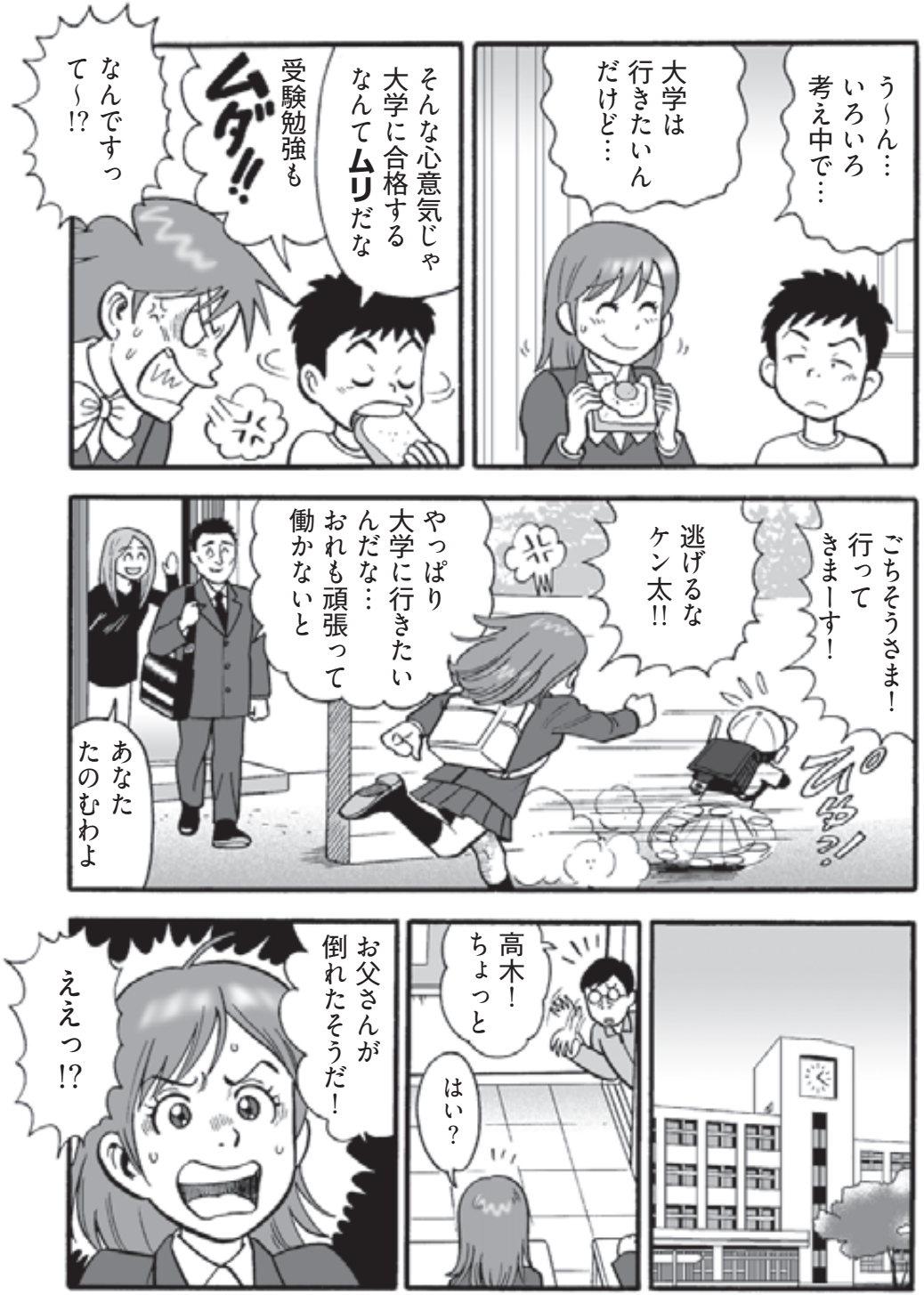
まんが 4～35 まんが「医療分野の社会福祉士 医療ソーシャルワーカー」

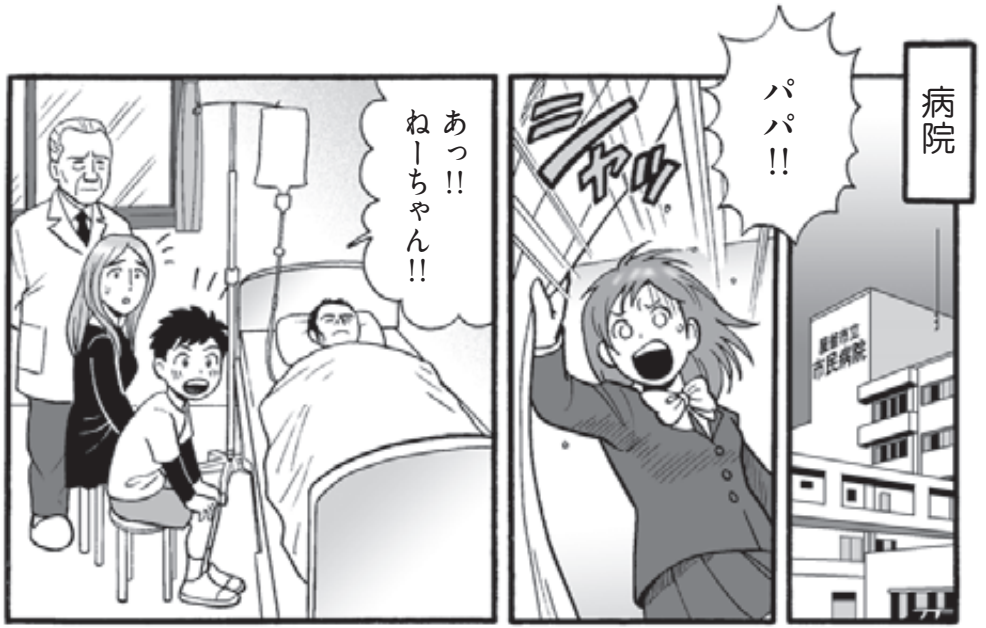
6 脳梗塞とは
8 脳梗塞の後遺症
16 高額療養費支給制度
18 健康保険傷病手当金
19 病院には種類がある

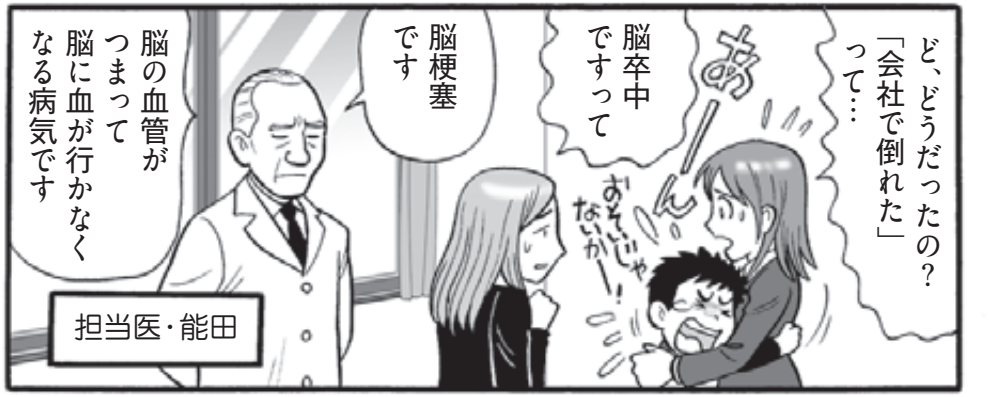
コラム 29 先輩談「医療ソーシャルワーカーってどんな仕事」
30 医療ソーシャルワーカーの仕事
31 医療ソーシャルワーカーの活躍の場所
33 医療ソーシャルワーカーになるには？
35 主人公のお父さんはなぜ転院が必要だったのか？
36 医療ソーシャルワーカーに求められる役割の変化
37 チーム医療と地域ネットワークづくりに取り組む医療ソーシャルワーカー

38 「チーム医療」って何？
チーム医療推進協議会とは？
39 チーム医療推進協議会が目指していること

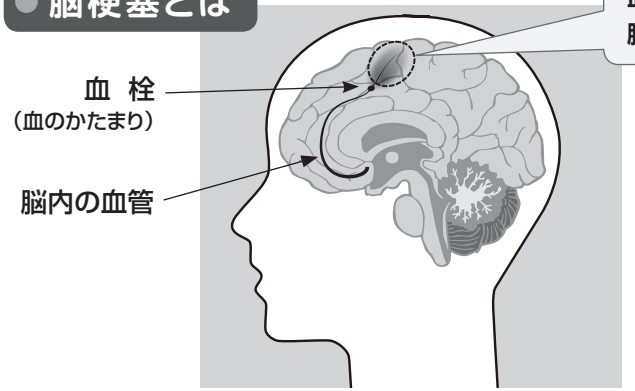

パパ！昨日の大丸選手の超プレーみた!?
ケン太も来週の試合で活躍しろよ！
はは
まかせて！プロ野球選手になるのがボクの夢だもん！
それよりパパ！打撃の指導もっとしてよ！
もう?!
さっきから野球の話ばっかりしてうるさいな!!
そういえばミオ！
お前は将来何になりたいんだ？
エ…？
高木ミオ
高校２年生


う～ん…いろいろ考え中で…
大学は行きたいんだけど…
そんな心意気じゃ大学に合格するなんてムリだな
受験勉強もムダ!!
なんですって～!?
ごちそうさま！行ってきまーす！
逃げるなケン太!!
やっぱり大学に行きたいんだな…おれも頑張って働かないと
あなたのむわよ
高木！ちょっと
はい？
お父さんが倒れたそうだ！
ええっ!?





● 脳梗塞とは

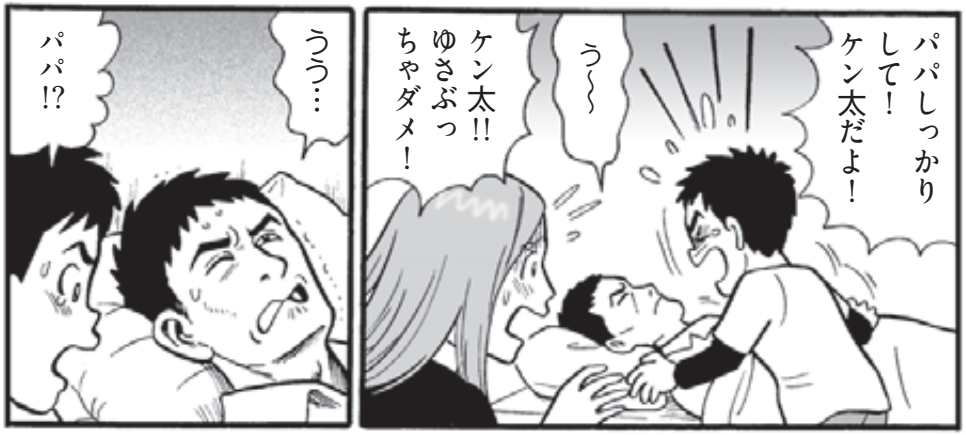


血液が供給されないため、脳細胞がダメージを受ける

その結果

- 手足のまひ
- ろれつが回らない
- 視野が欠ける　など

最悪の場合、命を失うこともある病気です。



医療ソーシャルワーカーの仕事

医療ソーシャルワーカーは社会福祉を学び、 社会福祉士という国家資格を持っています。社会福祉の目標は、「人々が、その人らしく幸福に生活できること」です。けれど私たちが生活していくうえでは、 この目標のようにいくとは限りません。
特に、 病気やけがをしたり障害が残った時は、「自分らしく幸福に生活できること」は難しいと感じたり、健康な時には思ってもみなかったような悩みや生活上の問題が出てくることがあります。

病気やけが、障害が残ったときの悩みや問題の例

- 治療についての不安や、療養中の家事や育児など
- 治療費や生活費
- 患者さん同士やスタッフとの人間関係
- リハビリ病院や療養病院への転院、施設入所
- 退院後の生活や介護
- 仕事や学校への復帰

医療ソーシャルワーカーは、社会福祉士という立場から、
患者さんや家族の悩みや生活上の問題の解決、軽減の支援を行います

医療ソーシャルワーカーは、どのように仕事を進めているの？

❶ 相談者から、悩みや生活上の問題について話を聞く

❷ どうすればいいか相談者と一緒に考える

❸ 相談者の自己決定を尊重し、問題の解決のために支援する

医療ソーシャルワーカーの活躍の場所

医療ソーシャルワーカーは、主に保健医療機関（病院 ・ 診療所 ・ 保健所等）で働いています。 部署としては医療福祉相談室、地域医療連携室、総合相談室等の部署にいます。 近年は医療介護の連携強化が求められ、 介護老人保健施設や地域包括支援センター、などにも活躍の場が広がっています。

医療ソーシャルワーカーの仕事の様子

患者さん・家族との面接

面接室で、患者さん家族の話を丁寧に聞き、どうしたら良いか一緒に考えます。

病棟カンファレンス

医師、看護師、理学療法士等と情報共有し、医療チームとしての支援を検討しています。

患者さんの自宅へ訪問

患者さんの希望する生活が送れるように、自宅環境や福祉サービス等を調整し支援します。

地域の専門職との勉強会

地域の開業医や訪問看護師、福祉サービス提供者と勉強会を行い、連携を深めています。

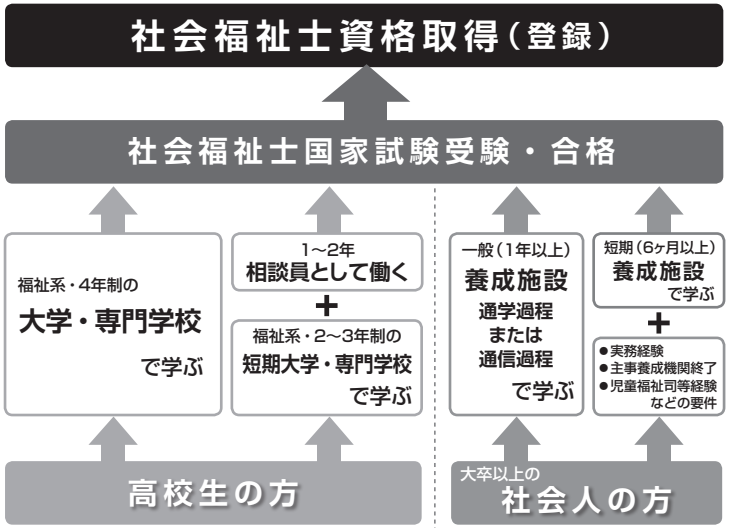
医療ソーシャルワーカーになるには？

医療ソーシャルワーカーになるには、社会福祉士という国家資格を取る必要があります。なぜならば、働く先の保健医療機関や老人保健施設、地域包括支援センター等の施設基準（機関や施設運営を行うのに必要な事項を国が定めたもの）には、社会福祉士の採用の必要性が記載されているからです。医療ソーシャルワーカーとして働いている人の学歴は、大卒又は大学院卒者の割合が非常に高いです。専攻は社会福祉学部を選び社会福祉士の国家資格が取れるカリキュラムを履修するといいでしょう。

社会福祉士とは？

「社会福祉士及び介護福祉士法」に定められた資格で、身体・精神・環境などの理由により日常生活を営むのに支障がある方の福祉に関する相談に応じ、福祉・医療サービスやその他の関係者と連絡・調整し、相談援助を行う社会福祉の専門家です。

【 社会福祉士の資格をとるには 】



おわり

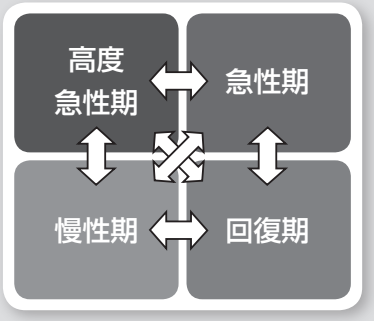
主人公のお父さんは なぜ転院が必要だったのか？

治療の目的別に、医療機能が分けられ、病状によっては一つの医療機関だけでは完結できなくなったためです。たとえば、

❶ **急性期・高度急性期**	急性期は、急な病気やけが、状態が悪化した時に治療し、ある程度安定した状態になるまで医療を提供 高度急性期は、急性期よりも高度な医療を提供
❷ **回復期**	在宅生活、仕事の復帰などに向けた医療やリハビリテーションを提供
❸ **慢性期・生活期**	長期にわたり療養が必要な人に医療を提供

これを「医療機能の分化」と言います。以前は一つの病院に長く入院ができました。ところが高齢化が進み、受診や入院を必要とする方が増えています。医療にかかわるスタッフや財源は限られる中で、それらを有効に活用しようと機能が分けられ、転院が行われるようになるのです。そこで、地域の病院や診療所の連携が求められており、医療ソーシャルワーカーがその要となっています。

【 今後求められる医療機能の連携 】



⇔ **転院の流れ**

高度急性期、急性期、慢性期、回復期の４種類の病院が連携して、スムーズに転院が行われる状態が求められている

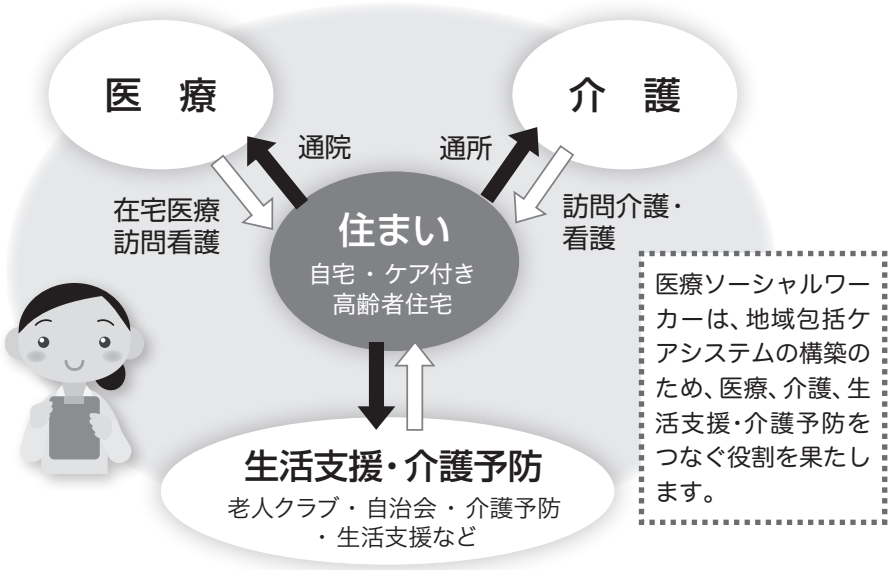
医療ソーシャルワーカーに求められる役割の変化

医療技術の進歩によって以前より命が助かるようになった一方で、重い障害や徐々に症状が進行していく病気をもちながら生活する人が増えました。「その人らしく幸福に生活できること」は、医療だけではなく、保健、福祉、介護、司法、教育などさまざまな領域の人たちと力を合わせることが必要です。

2025年には、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という超高齢社会を迎えます。住み慣れた地域での暮らしを続けることができるよう、地域が一体となったシステム（地域包括ケアシステム）づくりが急がれています。医療ソーシャルワーカーは、医療の現場から、生活上の課題にも取り組みつつ、日頃の問題意識から地域のシステムづくりへ参加し働きかける重要な役割をもっています。

地域包括ケアシステムのイメージ

可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、支援・サービス提供体制を構築します。



チーム医療と地域ネットワークづくりに取り組む医療ソーシャルワーカー

医療ソーシャルワーカーは、「チーム医療」を担う専門職の中で、社会福祉の立場から生活課題にかかわる専門職です。一人の人から、身体の事、心の事、生活の事をばらばらに切り離して考えるのは難しく、それぞれ絡み合って、その人そのものを作っているものです。そして、家族や周りの人たちとの関係の中で人生は進んでいきます。体だけでなく、心、特に生活や人生にも目を向け、じっくりお話をお聴きし、「権利擁護的な役割」を果たすことができます。他の専門職との「通訳的役割」「仲介的役割」をとることもできます。

そして、一人ひとりの希望をつなぐために、病院内でのチーム医療から地域のネットワークへと広げていきます。その過程で、新たに資源を見つけ、ないものは創り出すなどして、地域づくりにもかかわります。こうして、保健医療機関と地域との間で、その人の希望の橋渡し的役割を果たしているのです。皆さんも、医療ソーシャルワーカーの仲間に入りませんか？

役所や地域包括支援センター、福祉サービス提供者と、地域包括ケアシステムづくりのための会議

◂◂◂「チーム医療」って何？　詳しくは次のページへ

「チーム医療」って何？

病院では、 様々な職種のメディカルスタッフ（医療専門職）が働いています。
その人たちが連携して、 専門スキルを発揮しながら治療やケアをすることを
「チーム医療」と呼びます。

「チーム医療」を推進する チーム医療推進協議会とは？

チーム医療を推進するために平成21年にスタート。
現在では医療関係17職能団体が参加しています。

- 日本医療社会福祉協会
- 日本医療リンパドレナージ協会
- 日本栄養士会
- 日本看護協会
- 日本義肢装具士協会
- 日本救急救命士協会
- 日本言語聴覚士協会
- 日本作業療法士協会
- 日本歯科衛生士会
- 日本視能訓練士協会
- 日本診療情報管理士会
- 日本診療放射線技師会
- 日本精神保健福祉士協会
- 日本理学療法士協会
- 日本臨床衛生検査技師会
- 日本臨床細胞学会細胞検査士会
- 日本臨床心理士会

詳しくは各団体のHPをご覧ください

チーム医療推進協議会が目指していること

今後、各メディカルスタッフの専門的知識や技術の進歩を土台としながら、
各職種が連携して 「チーム医療」 を実践することで、 患者さんが中心の
医療を推進する必要があります。 そのために次の4つを目指しています。

1 患者中心の医療の推進

患者さんに尊厳をもって接します。 患者さんが置かれている状況やその考え方を配慮し、 患者さんとご家族の意向を反映した医療を提供します。

2 高いレベルの専門性の推進

専門職として、高いレベルの知識と技術の習得に努めます。専門的技術の標準化を進め、安全で効果的な業務を行います。

3 情報共有の推進

常にチームとしての方針を共有するため、カンファレンス等に積極的に参加します。業務を適切に記録・保管管理して、 情報の漏えいに最大の注意を払います。

4 チーム医療の推進

他のメディカルスタッフの専門性に敬意を払うと同時に業務にも関心をもち、 チームの統合性を目指します。 自分の専門性を伸ばすだけでなく、 協働意識も育てます。

あなたも メディカルスタッフを目指して、チームの輪に入りませんか！